

さいたま市長 8月定例記者会見

平成 29 年 8 月 8 日（火曜日）

午後 1 時 30 分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社の東京新聞さん、進行をよろしくお願いたします。

○ 東京新聞 8月の幹事社の東京新聞です。よろしくお願いします。
それでは、本日の記者会見内容について市長から説明をお願いします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。
7月27日、「2017ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」の「大会100日前PRイベント」を開催いたしました。前日、26日には、さいくり広報部長にモデル、タレントの松元絵里花さんが就任いたしました。大会PRのためのプロモーション活動、SNSでの大会情報の発信など、大いに期待しているところでございます。

また、「ツール・ド・フランス2017」で3年連続4度目の個人総合優勝を果たしましたクリス・フルーム選手の出場が決定いたしました。さいたまクリテリウムへの出場は、初開催から5年連続5度目となります。いよいよ開催まで100日を切りました。大勢の皆様にお越しいただき、楽しんでいただきますよう大会を盛り上げていきたいと思っております。

それでは、本日の議題に移らせていただきます。

市長発表：議題1～さいたま市の取組を世界に発信！「Global City Team Challenge (GCTC) EXPO 2017」に参加し、本市におけるスマートシティの取組をトップセールスします！！

まず初めに、議題の1でございます。

来たる8月28日から29日の2日間にわたりましてアメリカのワシントンD.C.で開催されます「Global City Team Challenge (GCTC) EXPO 2017」に参加をし、本市におけるスマートシティの取組をトップセールスすることについて説明をさせていただきます。

まず、概要でございます。モノとモノをインターネットでつなぐIoT技術を活用したスマートシティの取り組みを目指す「GCTC EXPO 2017」に参加し、現在浦和美園地区において推進しておりますスマートシティの取組をトップセールスしてくるものでございます。会議の詳細はこの後説明させていただきますが、この会議への参加は今回が初めてになります。

美園地区におけるスマートシティの取組ということで、美園タウンマネジメント協会の会長であります慶應義塾大学の西宏章教授と一緒に参加し、本市の取組を世界に向けて発信をしてみたいと考えております。

それでは、GCTCについて説明したいと思います。

まず、このGCTCでありますけれども、これはアメリカ国立標準技術研究所が主導して行われているものでございまして、IoT技術を活用したスマートシティを構築することを目指したプログラムであり、2014年から開始されたものでございます。

自治体、大学、企業がチームをつくって参加しており、その分野は公共分野を中心に交通、安全、災害対応、エネルギー、健康医療などで構成されます。アメリカの自治体だけではなく、アムステルダムやジェノバ、釜山といった海外の自治体やアメリカの企業も数多く参加しております。

GCTCの狙いではありますが、現在多くの自治体においてスマートシティ構築の取組が実施されておりますが、どれも横断的な取組が不足しており、拡張性や相互接続性に乏しく、その結果として取組が孤立して、費用対効果の課題もあると言われております。

そこで、GCTCは複製が可能で、拡張が容易で、持続可能で、相互接続可能なスマートシティモデルの構築を目指すなど、いわゆる「標準化」を志向しております。この考えに深く共感するとともに、非常に多くの自治体、大学、企業が参加しており、さいたま市として参加することによって多くの知見を得ることができると確信したことから、自ら参加することを決定したところでございます。

2014年から活動開始をいたしましたGCTCでございますが、毎年取りまとめのEXPOを開催しております。今回は第2ラウンドの最終年度になります。8月28日から29日の2日間にわたってワシントンD.C.で開催されます。

100を超えるチーム、300を超える大学、企業、そして2,000人規模の来場

者を見込んでいると聞いております。そこで発表することは、非常に大きなインパクトがあるものと考えております。

次に、会議に参加をすることになった経緯についてでございますが、昨年度美園タウンマネジメント協会の会長でもあります慶應義塾大学の西教授が総務省の委託事業の採択を受けまして、協会の事業と連携をしながら美園地区において研究開発を実施しているところでございます。2015年からGCTCに参加している総務省から私に対しまして、美園地区におけるスマートシティ構築に向けた取組を発信していくために本会議に参加をしてほしいというお話があり、喜んで承ったものでございます。

次に、会議で何をするかということでもありますけれども、さいたま市としてはパネルディスカッションと講演に参加をいたします。このパネルディスカッションは、西教授が登壇してお話をさせていただき、また講演においては私のほうから発表させていただき、そしてトップセールスをしていくということになっております。

講演では、3年間の延長が認定されました「次世代自動車・スマートエネルギー特区」における重点プロジェクト「スマートホーム・コミュニティ」の取組、あるいは美園タウンマネジメント協会におけるIoTを活用した先導的な取組などにつきまして発表させていただき予定でございます。アメリカの自治体の首長も多数参加されることから、先進事例を勉強し、本市の取組にも生かしていきたいと考えています。

最後に、今回の行程でございますけれども、「GCTC EXPO 2017」への参加が一番の目的ではございますけれども、せっかくの機会ですので、その前後にも先進事例の視察や意見交換等を組み込んでおります。

26日には、盆栽のPRを実施していくためにアメリカ国立樹木園への訪問をいたします。また、27日にはシニア層の活用手法の研究といたしまして、全米退職者協会の視察、また情報通信研究機構との意見交換、そして28日にはGCTCへの参加に加えまして、日本大使館での意見交換、FIWARE（ファイウェア）レセプションへの参加を予定しております。

今回の「GCTC EXPO 2017」への参加を通しまして、本市のスマートシティにおける取組を世界に発信していき、本市が先導的な都市であることを国内外にしっかりとアピールをしていきたいと考えております。議題1に

については以上でございます。

市長発表：議題2「大宮駅周辺地域が都市再生緊急整備地域に指定されました」

続きまして、議題2「大宮駅周辺地域が都市再生緊急整備地域に指定されました」について説明をさせていただきます。

このたび都市再生特別措置法に基づきます都市再生緊急整備地域を定める政令が7月28日に閣議決定し、8月2日に公布施行されました。そして、大宮駅周辺地域が都市再生緊急整備地域に指定されました。また、大宮駅周辺地域の都市再生緊急整備地域の整備に関する方針として、「地域整備方針」があわせて定められました。

この都市再生緊急整備地域とは、都市再生特別措置法に基づきまして、緊急かつ重点的に市街地の整備を推進すべき地域として政令で定める地域でありまして、民間事業者に対しまして各種の支援制度が用意されております。民間活力を生かしたまちづくりが展開しやすくなるものでございます。

現在、大宮駅周辺地域を含め全国で指定を受けている地域は、都市再生緊急整備地域及び特定都市再生緊急整備地域を合わせまして66地域となっております。さいたま市内では、平成15年にさいたま新都心周辺地域の47haが既に指定をされております。

今回新規に指定された地域としては、この地図に示されております。この大宮駅を中心といたしました130haのエリアとなっております。今後事業が想定されます、西側が国道17号線、北側が市営桜木駐車場を含めたエリア、県道さいたま春日部線、それから氷川参道、そして南大通東線等の道路で囲まれたこの130haがその指定地域になります。

また、この当該都市再生緊急整備地域の「地域整備方針」につきましては資料の別紙2のとおりとなっております。この地域整備方針には、指定地域における整備の目標として、「交通機関相互の結節機能を強化」でありますとか、「東日本の対流拠点にふさわしい魅力とにぎわいを備えた都市空間を形成」、「災害に強い強靱な都市基盤を形成」等が示されております。

また、都市開発事業を通じて増進すべき都市機能に関する事項として、

「オフィス・ホテル・会議室等の都市機能の集積」、「交通ターミナルとしての交通結節機能を強化」、「街区再編や災害時対策による防（災）機能の強化」、「公共施設の再編による都市機能の強化」を求められておまして、大宮駅周辺地域における課題を視野に入れた内容になっております。

次に、この地域指定による民間事業者への支援措置についてご説明をさせていただきます。この指定地域におきまして、民間事業者がこの「地域整備方針」に則した都市開発事業を行う場合に各種の支援措置の活用ができます。

まず、都市計画の特例についてでございますが、都市開発事業を行う場合に、都市計画で定められた用途地域などにより、建物の用途、あるいは容積率、建蔽率などの一定の制限の中で行われますが、この都市再生緊急整備地域内においては、敷地面積が5,000㎡以上との条件がついておりますけれども、民間事業者が既存の用途地域にとらわれず自由度の高い計画が行えるように、用途制限、あるいは容積率制限等の緩和が可能な都市再生特別地区を都市計画に定めるよう提案ができるものでございます。

また、この都市再生緊急整備地域に位置づけることで道路の上空に建築物を建てるのが可能となる規制の緩和も行うことができます。さらに、この都市再生特別地区の指定の手続につきましても、提案を受けてから6カ月以内に都市計画決定を行うなど、手続の迅速化も図られます。

次に、金融支援、それから税制支援についてでありますけれども、民間事業者が国土交通省から民間都市再生事業計画の認定を受けた事業に対しまして支援制度を活用することができます。

まず、金融支援については、メザニンローンと言われる、通常融資を受けづらいと言われる部分について、民間都市開発推進機構から融資を受けることができます。また、税制支援としては、所得税、法人税の割増償却、それから不動産取得税の課税標準から一定割合を控除、さらに固定資産税、都市計画税についても一定割合を控除できるなど、税の特例を受けることが可能になります。

大宮駅周辺が都市再生緊急整備地域に位置づけられたことで、民間の活力、これを生かしてこのまちづくりを展開しやすくなります。東日本の対

流拠点にふさわしい、魅力とにぎわいを備えたまちづくりの実現に向けて、この今回の都市再生緊急整備地域に指定されたことによって、さらに大きく弾みがつくものと期待しています。

特に現在取り組んでおります大宮駅グランドセントラルステーション化構想の推進に大きく寄与するものと考えております。ぜひまちづくりを検討している民間事業者の方にこの制度の活用についても検討をしていただければと考えております。

本市としては、この指定を契機に、首都圏広域地方計画におきます東日本の玄関口としての役割を果たせるよう、より一層官民一丸となった、スピード感を持ったまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

私のほうからは以上でございます。

議題 1・2 に関する質問

○ 東京新聞

ありがとうございます。

幹事社から質問させていただきます。まず、1 個目の発表のトップセールスの件なんですけれども、先ほど市長は参加の理由について多くの知見を得ることができるとおっしゃいましたけれども、具体的にどういった知見とございますか、どういった分野で情報を得たいとお考えなのか、もう少し具体的に教えてください。

2 点目、大宮のほうなんですけれども、緊急整備地域の指定というのは一つの出発点かと思うのですけれども、次の段階として、まず何を契機に進めていきたいのかということをお教えください。

お願いします。

○ 市長

まず、この具体的な知見を得ることについては、先ほども申し上げましたとおり、GCTCというのは、スマートコミュニティを含めたIoT技術をしっかりその一つのプロジェクトだけではなくて汎用性がある、標準化がされて、より多く広げていけるようにするというのが大きな狙いでもありますので、さいたま市としても、美園地区、今まずそこで先導モデルをつくるということを考えておりますが、この後は当然さいたま市内の全域であったり、あるいはさらに言うならば全国にこのモデルを波及させていきたいと思っております。

そういう意味では、今さいたま市が取り組んでいるスマートシティ、あるいはこういった取組については今たくさんの民間事業者に入っていて、民間、それから学会といいますか、学識経験者といいますか、そういった方々と市が取り組んでいます、そういった広く実現可能性のあるスマートシティのモデルをさらに充実を図っていくと。今さいたま市が取り組んでいることも一つでありますけれども、それ以外にもいろいろな取組がされている具体的なケースを聞くことによって、私たちもそれを参考にさせていただきながら、より世界に発信ができるまちづくり、あるいはより高度なスマートシティの構築に向けて大きな知見が得られるのではないかと考えています。

それから、2点目につきましては、今回都市再生緊急整備地域への指定ということになりましたので、今後民間の事業者からの提案を待つということになるわけでありまして、その際にも私たちとしてはその中核的部分であります大宮駅をどうするか、大宮駅グランドセントラルステーション化構想をしっかりと固めていくというこれが非常に重要だと。というのは、民間の事業者にとっては、採算性であるとか事業性ということが大変大きなポイントになるかと思っておりますので、駅等へのアクセスがどうなるのか、交通がどうなっていくのかも含めて、それを知ること、より民間事業者が取り組みやすい環境ができてくると思っております。

また、先ほどの130haのところの中にも取り組めそうな場所などもあろうかと思えますし、より多くの地権者の皆さんにもこの都市再生緊急整備地域の指定を受けたということについては、十分私たちもお知らせをしていくとともに、積極的な活用をお願いすることなどを行っていきたいと思っております。

○ 東京新聞

ありがとうございます。

各社から発表内容について質問ありますでしょうか。

議題1に関する質問

○ 埼玉新聞

埼玉新聞です。

初めのほうなんですけれども、アメリカに行っているいろんな知識を得るとともに、さいたま市内のスマートシティについてPRしてくるという

ことですが、スマートシティの特にどの部分というか、これこれこうしている部分をPRしたいというか、具体的なPR箇所を何点か教えていただけると助かるんですけど。

○ 市 長

1つは、このプロジェクトを推進するに当たっては、さいたま市は美園タウンマネジメント協会という公民学が一体となった組織をつくって、かなり具体的な事業を民間の事業者と協力をいただきながら進めている経緯があります。この公民学が一体となって進めているという、こういったモデルのあり方についてはより一層発信をしていく必要があると思っておりますし、そこで具体的に幾つかのサービスなどが既に実施されておりますけれども、今後そういったものだけに限定されることではありませんので、そこでさまざまなサービスの発想と申しますか、アイデアというか、企画が生まれて、それを官民一体となってその地域の中に取り組みでいく、進めていくことについては、ぜひしっかりと発信をしていきたいと思っております。

幹事社質問：

①東京五輪・パラリンピックについて

②民進党代表選について

○ 東京新聞

それでは、幹事社質問に移ります。2点あります。

まず1点目、東京五輪パラリンピックについて伺います。

2020年東京五輪の開幕まで3年を切りました。現在市のボランティア育成や市内の機運醸成について、市の取り組み状況や今後の課題についてお聞かせください。

2点目、民進党の代表選について伺います。

蓮舫代表が辞任し、9月1日に代表選が行われます。地元選出の枝野衆議院議員も出馬を表明されていますけれども、市長はこの代表選どのように注目されているのか教えてください。

○ 市 長

それでは、幹事社からの質問に順次お答えしていきたいと思っております。

まず、東京オリンピック・パラリンピックについてのご質問からお答えしたいと思います。大会まであと3年を切りまして、いよいよ大会開催に向けた取組が本格化してきたと思っております。世界中のアスリートや関

係者、また観光客がさいたま市に來訪する東京オリンピック・パラリンピックは、市の魅力をアピールする絶好の機会であると考えております。

大会を成功に導くために必要不可欠な存在でありますこのボランティアにつきましても、現在、埼玉県や県内の開催地の自治体と連携をしまして、来年度の本格的なボランティアの募集に向けた準備を進めております。

本市としては、こうしたボランティアの準備に対応していくために、市内の既存のボランティア団体に横串を通していく組織として、ボランティア連絡協議会を10月中旬に設置をする予定としております。この協議会では、各団体より豊富なノウハウや知見をご提供いただくことであつたり、あるいはボランティア実施体制の要でありますボランティアリーダーとなる人材を推薦いただくことなどを考えております。

また、今後の課題としては、このボランティア人材の確保、また既存の本市のスポーツイベントで活動するボランティアとの連携、こういったものをより深めていくということが挙げられると思っております。これについては、先ほど申し上げました連絡協議会を活用しまして、既存の活動団体からの意見を参考にして対策を講じていきたいと考えております。

また、機運醸成については、本年3月に、2020年に向けて官民で一体となって進めていく取組アイデアを「おもてなしアクションプラン」として取りまとめさせていただきました。このアクションプランでは、熱中症対策あるいは外国人救急患者の対応を初めとしまして、スポーツ振興あるいは文化プログラムの推進など全部で(12)のテーマで構成をされておまして、さいたま市に來る観光客へのおもてなし、また市民が気軽に参加できる取組を定めております。

先日の7月31日に、アクションプランを具現化する会議体として「アクションサポート会議」を設置させていただきました。このアクションサポート会議は、座長には早稲田大学スポーツ科学学術院の間野義之教授に就任いただきました。また、委員はアクションプランの作成にかかわっていただきました官民の関係者で構成するものでございます。

会議では、主に官民連携による実現に向けまして熟度が高い取組を対象として、間野教授や参加団体等のメンバーによって、事業スキームであるとか、あるいは課題に関するアドバイスや意見を出し合つて、実施に向け

て検討していくことになっております。

今後の課題としては、多くの取組について具現化をして、レガシーとしてこのオリンピック終了後も残していく、継続していくことが必要だと思っております。本会議を活用して、関係者からの意見やアイデアをいただくとともに、事業同士のマッチングなども視野に入れながらアクションプランを推進していきたいと考えております。

続きまして、民進党の代表選についてのご質問にお答えをしたいと思います。まず、9月に実施予定とされております民進党の代表選挙について、枝野幸男元官房長官がいち早く立候補の意向を示したことについては、マスコミ報道を通じまして承知をしているところであります。今回、国政政党のリーダーとして、国民のために働こうという強い意思を示したこと、また自らの政治スタンスや重要政策をはっきりと打ち出したことを高く評価しているところであります。

党所属国会議員だけの投票では枝野代議士が有利であるとの話も聞いたことはございますけれども、開かれた野党第一党の党首選であることに鑑みて、あえて国会議員に限定せず、党员・サポーターによる投票を主張されたことは、幅広い意見をしっかりと酌み取っていかうという姿勢の表れであると考えておまして、大いに評価するところでもございます。ぜひ頑張って、この代表選に勝ち抜いていただきたいと思っております。

また一方で、前原誠司氏については、私の出身でもあります松下政経塾の後輩ということもあり、心情的には複雑なところもございますけれども、今回は枝野代議士にぜひ勝ってほしいと思っています。

以上でございます。

○ 東京新聞

ありがとうございます。

幹事社質問に関連して、各社質問はありますでしょうか。

幹事社質問②に関する質問（県議補欠選挙について）

○ 読売新聞

読売新聞です。

民進党代表選に関係してお伺いしたいのが、県議補選が今月中に行われますけれども、その中で民進党が擁立している公認候補と、あと元市長の政務秘書をされていらっしゃった藤井さんも出ていらっしゃいますが、市

長として態度といたしますか、応援する方というのはいらっしゃるのかどうかというのをまずお伺いできればと思います。

○ 市長 まず、県議補選についてでございますけれども、民進党からも公認の候補が出て、そして私の元秘書でありました候補予定者も出馬する方向と聞いているところでございますけれども、私としても大変苦しいところであり、可能であれば2人とも当選していただきたいと思っておりますけれども、定数1でありますので、この選挙戦については中立という立場で臨んでいくと考えております。

○ 読売新聞 ありがとうございます。

追加でなんですけれども、今回藤井候補がポスターでよく清水市長のお顔を使っていらっしゃるだとか、あと事務所開きでも電報を読み上げられたりだとかしていらっしゃるんですけれども、そういったところに対してはどのようにお考えでしょうか。

○ 市長 基本的には、この2人については同じように対応していこうという方針のもとに進めさせていただいておりますけれども、ポスターについては、まさに作ってしまって、張り出す直前ぐらいに話が来たという状況も現実としてはありまして、しっかりそういった了承もとってほしいということをお求めたところでもありますけれども、既にかなり準備が進んでいたということもあったので、了承をさせていただいたところであります。

また、あわせて、遅れてしまいましたけれども、西山候補にも、もし使われるのであればということでお話もさせていただきました。

藤井候補の使っている写真については、前回県議選で使われていたものを活用されていると聞いているところでございます。

それから、基本的には、告示前と後とは少し切り分けていまして、告示前のいわゆる政治活動期間については両方とも同じように協力をできるだけさせていただこうと。ただ、告示後については両方に、基本的には選挙戦については中立を通して、かかわらないと。両方にかかわらないというスタンスで考えております。

○ 埼玉新聞 埼玉新聞です。

今の県議補選に関連してなんですけれども、具体的にどこかの陣営から市長に対して、告示後に応援演説をしてくれですとか、その応援の依頼み

たいなものはございましたでしょうか。

- 市 長 現時点で、選挙期間中に具体的にこの日にどうしてくれとか、そういった要請は来ておりませんが、その準備の段階の中で、選挙戦については両方とも、両者に対して中立的な立場をとりたいので、基本的には選挙戦には両者とも協力については辞退をしたいと、こういうお話を両陣営に対してはさせていただいているところでございます。
- 埼玉新聞 来ても受けないよというふうなことをもう伝えているという解釈でよろしいでしょうか。
- 市 長 はい、そういうことでございます。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
先ほどのポスターの件なんですけども、元秘書の方のほうは、もう私もポスターを見たのですけれども、もう一人の民進党の候補予定者の方のほうは、先ほど許可を出されたとおっしゃいましたけれども、市長の知る限りで、それはポスターになっていますでしょうか、もう。
- 市 長 いや、民進党の候補者については、今のところなつたということは聞いておりません。恐らくそれぞれの政治活動あるいは選挙後の戦い方もあろうかと思えますけれども、できるだけ私たちとしては、機会としては平等に対応させていただこうということを考えておりますので、先ほどの事務所開き等も、今後西山候補もあれば、祝電等は同じように打たせていただくということになろうかと思えます。
- 朝日新聞 朝日新聞です。
同じく県議補選について伺いたいんですけど、先ほどのポスターに使われた市長の顔写真についてのご説明を伺っておりますと、藤井さんの側から事前のご了承を得るようなお話はなくて、事後にお話があったというように捉えたのですけれども、そういう認識でよろしいでしょうか。
- 市 長 そうですね。事後か事前かというのはちょっと微妙なところで……
- 朝日新聞 張る前とはいえ、つくった後。
- 市 長 そうですね。製作については、少しフライングぎみであったのではないかと思っておりますけれども、張り出す前には一応話は来ました。既にもう印刷もほぼ終わっているというお話もありましたので、その中で判断をしたということです。

- 朝日新聞 ただ、今、大宮のまちに行くと、市長も恐らくご存じじゃないかと思うんですけども、藤井さんは市長の顔写真を使ってポスターをつくられて、民進党公認から出られる方は枝野さんのお顔を使っていらっしゃるの、それを両方見ると、藤井さんのほうは市長が応援されていて、民進党のは当然と言えますけれども、枝野さんが応援していると。市長は、民進党公認から出る予定の方を応援していらっしゃるようなにも一般の方から見ると見られるのですけれども、そういう状況について市長はどのようにお考えですか。
- 市 長 こちらとしては、聞かれれば中立だとお答えもしておりますし、基本的には機会としては平等にしていこうと思っております。ただ、それぞれ個々の戦略というか、戦い方というか、あるいはどういう形でやるかということについては、それぞれやはり陣営、候補者を含めた陣営が判断をされることになるのだらうと思しますので、必ず私の写真を使わなくてはだめだとかということではないので、それはその中でご判断いただくしかないのかとは思っております。先ほども言いましたように、基本的には中立の立場をとっていくということであります。
- 朝日新聞 済みません、重ねてで申しわけないです。
- おっしゃるとおり、各陣営のお考え、仕方というのは、市長おっしゃるとおりだと思うんです。ただ、有権者の方の受けとめ方として、そういうふう to 受け取られかねないのではないかと私個人的には思うのですけれども、市長のほうはそういう危惧というのはなさっていないと。
- 市 長 時々、いろいろな方々からお問い合わせなり、私に直接聞かれることもございますけれども、その際には中立とお答えをしております。
- テレビ埼玉 テレビ埼玉と申します。
- 確認という形になってしまうのですけれども、県議補選の件についてなのですけれども、民進党が擁立される方と元秘書の方、両方出られるかと思うのですが、両候補に対して中立というふうなお話があったかと思うのですけれども、これは両候補を応援するというよりかは、両候補に全くかわらないというような形で進めるという認識でよろしいでしょうか。
- 市 長 基本的には、選挙でいうと告示の前か後かというのはあると思っておりますけれども、告示の前はいわゆる政治活動でありますので、それぞれお二人と

もそれなりのいろいろなかわり方もありますので、その前についてはこちらとしても協力できることは協力をしたいという思いはあります。ですので、これまでも協力をさせていただきました。

ただ、選挙告示後ということになりますと、やはり定数が1という状況がございますので、両方というわけにもいかないところがあるかと思えますので、両方ともかわらないということになると思えます。

幹事社質問②に関する質問

○ 共同通信

共同通信と申します。

民進党代表選の件で、先ほどおっしゃった枝野代議士に頑張ってもらいたいということでしたけれども、これはやはり地元から選出されている方であるというところが、ということなのかというのが1点と、あと国会議員票だと枝野さんのほうが有利だという話をお聞きになられていたというお話だったのですけれども、済みません、ちょっとそのところもう一度確認を。

○ 市長

まず、枝野さんに対する評価というか、理由ですけれども、一つはもちろん地元の議員であるというのが要素の一つでありますけれども、もう一つは、これまでの政治活動の中でいろいろな要職にもつかれ、またその中で着実に仕事をしてこられたという実績もあると思っておりますし、またより広く多くの市民の皆さんの声を聞いていこうという、そういった姿勢もうかがえるということもあって、頑張ってもらいたいという思いです。

それから、一般的ないろいろな評価、見方によってどちらが有利とか、どちらが不利だとか、いろいろな考え方があろうかと思えますけれども、その中で見解を申し上げただけでありまして、いずれにしても地元であるということもありますし、これまでの実績や活動、こういったことを見て、ぜひ勝ってほしいという思いだということでもまとめておいてください。

幹事社質問②に関する質問（県議補欠選挙について）

○ 東京新聞

東京新聞ですけれども、先ほどのいろいろお話をまとめると、つまり市長としては告示前に関しては、藤井さん、西山さん、どちらの陣営から、言い方が適切かわかりませんが、自分が使われても構わないというスタン

スで、たまたま藤井さんの陣営は市長を使っている、西山さんの陣営は市長を使っていない、向こうは向こうの判断でたまたまそうになっているという認識になるのでしょうか。

○ 市長 西山さんのほうも、今後作成されるビラ等に使われるというお話も聞いてはおります。

ですので、なるべく機会として、平等に対応していきたいという思いで申し上げておりますけれども、ただ、その中で選択するのは、あくまでもそれぞれの陣営であろうと思いますので、その中で判断をして、活用いただくもよし、活用いただかないもよしということでありまして、あくまでも県議補選は、誰から応援してもらっているということも、もちろんその選択の要素の一つにはなるのかもしれませんが、基本的には候補者本人が埼玉県をどうするのか、あるいは大宮区から選出されるわけですから、大宮区のまちであったり、大宮区のまちづくりの中で市とどう連携するのかということも重要なことだろうと思います。あるいは今回の政務活動費の問題などを含めて政治改革、あるいは議会改革等をどうしていくんだということも、しっかりとそれぞれの候補自身が有権者の皆さんに提示をし、またそれをしっかりと政策論争しながら選挙戦は戦われるべきものであると。そこがメインであると私自身は考えておりますので、その中で、ただ、もう一方でそういった応援していただいているとか、党のそれぞれの議員さん、あるいは政党との関係ということも、もちろん選択の要素の一つにはなるということは十分承知しておりますので、その中でできるだけ平等な形で、中立的な形で両候補とはかかわってこうということでもらせていただいたということでもあります。

○ 東京新聞 それでは、そのほか質問ある社をお願いします。

幹事社質問①に関する質問

○ 共同通信 共同通信です。

先月ですけれども、東京五輪パラリンピックの3年で、当該会場の運営経費350億円に、宝くじ収益を充てようというような考えが東京都のほうから示されて、それに自治体のほうで連名で要望書を出すというようなことが提案されたということがありますけれども、この件について改めて市長

のお考えをお聞かせください。

- 市長 まず、大会が開催される自治体において担う業務の経費負担について、これを軽減化していくために宝くじの活用を財源にしていくということについては、基本的には理解もしているし、賛成もしているところでございます。ただ、今回の件で言うならば、この輸送とかセキュリティなどの大会経費に対する自治体の負担については、5月31日に開催された関係自治体との連絡協議会の中で合意をしたものではない分野でございますので、これらについては少なくとも開催（都市）でございます東京都と組織委員会、こういったところが連名要望していくということが筋だろうと考えております。
- 共同通信 追加で。そうすると、宝くじを財源にすることは、これは理解できるということなんですけれども、輸送、セキュリティなどについて関係自治体のほうで、連名にすれば、その辺についても関係自治体も持たないといけないということになるのではないかという危惧があるということですね。
- 市長 そこについては、まだ一切議論がなされていない部分でございますので、そういう誤解を与えてしまう可能性もあるし、そういったことについて、まだ合意がなされているわけではありませんので、そういう意味からすると、今回その部分についての財源ということになるわけですので、それらについては組織委員会と東京都の2者の連名、あるいは東京都自身ということでもやられるべきものではないかということです。

議題2に関する質問

- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
ちょっと戻ってしまっただけなんですけれども、大宮駅周辺の都市再生緊急整備地域の件なんですけれども、いろんな特例が得られて、投資計画の特例とか金融の支援とか財政支援とかあるんですけれども、この中で市長が一番期待しているというか、これを指定されることによって、ここがこういうふうになるのだよというか、一番ここをこうしたいというか、期待しているところはどこかということと、あとこれは地元の民間の方々から、これを指定してほしいという強い要望があったのかということも教えてほしいんですけれども。

○ 市長

まず、どの部分がというと、これは総合的にあるので多分意味がある。民間事業者にとっては、この再開発事業、ちゃんと事業として採算がとれるかどうかということが、大変大きな事業を進めていく鍵を握っているかと思うのです。その際に、容積率であるとか高さ制限であるとか、あるいは用途制限であるとか、いろいろなものがハードルになってきます。それが、こういった整備方針に合うものであれば緩和されるということになると、やはり再開発事業としての重要性がかなり高まってくるということになろうかと思っております。

そういう意味では、この部分というよりは、総合的に行政が直接いろいろな形でかかわらなくても、民間事業者が積極的に、また主体的にこの事業が行いやすい環境になるということは、これは大変大きなことになると私自身は考えております。

また、地元から、そういった正式なものとしては来ていないと思えますけれども、当然一部そういった声はなくてはなかったと思っておりますし、また今後のさいたま市の財政状況などを考えたり、あるいはまちづくりについて言うと、やはり景気の動向、公共施設だけをつくるわけではありませんので、民間事業者の投資マインドの問題というのはすごく大きいものがありますので、そういったマインドがまだ冷めていないうちに、あるいは昨年、首都圏広域地方計画の中で東日本の対流拠点と位置づけられた、そういった機会を決して逸することなく、民間の事業者に積極的に取り組んでいただける大きなきっかけになると。

さらに、昨年の（首都圏広域地方計画）が第1弾とすれば、この都市再生緊急整備地域の指定はまさに第2弾の大きな風になると思っております。公共でさまざまな事業をやるよりは、民間のほうが、またやり始めるとものすごく早いということもありますので、そういったことも含めて今回の都市再生緊急整備地域については、私たちも大変期待をしております。

○ 読売新聞

読売新聞と申します。

関連してなんですけれども、今回大宮駅周辺の130ヘクタールが指定されたその理由と、あと地域整備方針の4つ事項が掲げられていますけれども、市として優先したい事項があれば、そちらを教えていただければと思います。よろしく申し上げます。

- 事務局 この130haが指定された理由なのですが、内閣府の指定の基準の中に、一定の都市開発事業が可能性があるエリアを、大きな道路だとか鉄道だとかで区切られた範囲という基準がありまして、大宮駅周辺での開発の可能性のあるエリアを設定したものです。

それと、地域整備方針が4つありますが、その中で優先といいますとどれを最初というのではないのですが、特に民間で、大宮駅ですと例えばオフィス需要が多いとか、そういうような中に供給が十分できていませんよというお話を聞いていますので、建物だとかというのは優先していただければ。

それと、あと駅前の空間です。特に東口の交通広場だとかというのは、これからグランドセントラルの話もあるかと思いますが、そちらのほうも市のほうと一緒にしながら進めていただければと考えております。

- 読売新聞 1つ追加でお願いしたいんですが、オフィスなどの誘致ということなんですが、目標数というのは現在あるんでしょうか。

- 事務局 済みません、そこについてはまだ定めておりません。

幹事社質問②に関する質問（県議補欠選挙について）

- 朝日新聞 県議補選の件について、ちょっと細かい質問で恐縮なんですけれども、藤井さんのほうは市長の政務秘書だったと名乗っていらっしゃるのですが、政務秘書という役職が、実際過去藤井さんがつかれていた役職なんですか。それとも、普通の秘書というのが正しいんでしょうか。そのあたりの仕切りがどうもよくわからないところだったのですが。

- 市 長 この仕切りの仕方、表現の仕方として、秘書というと、どうしても公務の秘書と、公務でない秘書かという、多分そこが1つ見え方として一番重要な要素なのだろうと思いますので、その中で、いわゆる公務員の皆さんの秘書ではないので、政務をやっている秘書だということで、政務秘書という表現なんだろうと思っております。

- 朝日新聞 政治家というか、個人としての秘書だということですね。わかりました。ありがとうございます。

議題2に関する質問

- 朝日新聞 都市再生緊急整備地域のほうなんですけど、こちらは市営桜木駐車場の部分も入っているかと思うんですが、市長が非常に強く進めていらっしゃるMICEの誘致等に関しても、今回の指定というのはかなり利するものだというふうに考えていらっしゃいますでしょうか。
- 市長 そういう意味では、特にMICE機能、ホテルであるとか、あるいはコンベンション施設、これをつくっていく上においても、やはり非常に重要な追い風になる指定だと思っております。

ホテルはともかくとしても、コンベンションのほうが非常に採算性の厳しい事業でもありますので、もちろんこれだけでこの事業性が賄えるかどうかという部分は、必ずしもそれだけでは難しい部分もあるかと思えますけれども、複合的な形であったり、あるいは多少やり方によって事業性が高まるということにはつながっていくと思っておりますし、私たちとしては、とにかくオフィスとホテル、それからコンベンション、この3つをできるだけ早く周辺に引っ張ってきたい、誘致をしたいという思いであります。

その他：さいたまダービーについて

- 埼玉新聞 埼玉新聞と申します。
- ちょっと話題が全く別な話なんですけれども、今月5日に埼玉スタジアムで浦和レッズと大宮アルディージャのさいたまダービーが行われまして、今アルディージャは降格も見えてくる16位、浦和レッズも8位ということで監督が解任という、2チームとも非常に苦戦している中での先日の対戦だったんですけれども、2チームへの思いですとか先日の対戦につきまして、市長としてどのようにごらんになりましたでしょうか。
- 市長 ことし、両チームとも途中で監督が交代をするというような状況がございました。
- 両チームとも、当初想定をしていた状況よりも、成績があまり芳しくないという状況がある中で、2度目のさいたまダービーということになったわけなんですけれども、両チームが新しいチームとしてさらに力を発揮するた

めのきっかけになる、そんな戦いになってくれればいいなという思いで見
ておりましたけれども、結果としては引き分けということで、それぞれ試
合内容についてのいろいろな評価はあろうかと思えますけれども、それぞ
れ今新しいチーム、あるいは新しいチームとしての戦略であったり戦術で
あったり、それを行っていくための一つの取組の途上であるという感じの
試合にはなったのかと思っております。

いずれにしても、このダービーをきっかけに両チームがさらに奮起をし
て、市民の皆さんにまた引き続き夢と希望を与えてくれる、そういう試合
をこれからも見せていただくことを期待したいと思っております。

○ 東京新聞 ほかありますでしょうか。

では、以上で質問を終了します。

○ 進 行 それでは、以上をもちまして市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催は8月31日木曜日14時からを予定しておりますので、
よろしく申し上げます。ありがとうございました。

午後2時25分閉会

※この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣い、話し言葉などを読み易く整理した
ものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）
とし、下線を付しています。